

(平成23～26年度)



社会知性の開発をめざす
石巻専修大学



社会知性の開発をめざす
石巻専修大学

地域貢献 ハンドブック



目 次

第3号の刊行に寄せて	1
石巻専修大学における地域貢献への考え方	2
石巻専修大学の歩み	2
石巻専修大学の組織図	3
地域貢献活動の実績	
1. 地域・学校との連携による学習支援	4
(1)子どもたちへの学習支援	4
○青少年のための科学の祭典への協力	
○教育ボランティア	
(2)幼稚園・小中学校との連携	5
○小学生への出前授業	
○中学生の職場体験学習	
(3)高等学校との連携による学習支援	6
○高大接続研究事業等	
○石巻圏域高等学校向け大学見学会	
○高等学校への出前授業・体験授業	
(4)石巻圏域保育・教育人材育成推進協議会	8
(5)OB教員と教員志望学生との交流会実施	8

2. 市民・地域への学習支援

8

- みやぎ県民大学「石巻専修大学開放講座」
- 石巻専修大学開放講座in登米市
- 教員の資質向上に向けた公開講座
- 科目等履修生・聴講生の受け入れ
- 出前講座・講師派遣
- 石巻専修大学共創研究センター企画

3. 産学官連携活動

12

- (1)産学官の交流 12
 - 石巻地域産学官グループ交流会 IMプロジェクト
 - 登米の地域資源を巡る旅
 - 登米市産業フェスティバルへの出展
 - 受託研究事業の受入れ
 - 技術相談
 - 研究員の受入れ
- (2)石巻信用金庫との連携事業(ISプロジェクト) 14
 - 「産学金連携コーディネーター認定研修」実施
 - 大学演習林で里山を学ぶ
 - 石巻地域観光シンポジウム

4. 地域活性化に向けた連携協力

16

- (1)行政機関等との連携 16
 - 行政運営への協力
 - ・委員会・審議会等への協力
 - 学校評議員の委嘱
 - 石巻圏域高等学校と石巻専修大学の懇談会
 - 石巻圏域首長・議長と石巻専修大学の懇談会
 - ・石巻地域連携協力推進会議
- (2)地域課題解決に向けた研究活動 18
 - 石巻専修大学共創研究センター研究プロジェクト
- (3)学生・教職員の地域貢献活動 22
 - 石巻川開き祭りへの参加
 - 石巻専修大学「石鳳祭」
 - 自動車工学コース「学生整備プロジェクト」に協力
 - 客船パシフィック・ビーナスの寄港を歓迎
 - 石巻わかめ料理創作グランプリ
 - 仙台七夕まつりで学生が石巻をPR
 - 被災者支援団体へ業務改善の提案を行う
 - 「復興ボランティア学」のスタート

5. 復興共生プロジェクト	25
---------------	----

- センター的機能整備事業
- 復興大学
- 3Dプリンタ活用による石巻市沿岸部の復元立体模型の製作
『ふるさと、石巻の情景～ 石巻市門脇町・南浜町周辺 ～ 』
- 石原ゼミナールが第7回『大学は美味しい!!』フェアに参加
- 山崎ゼミナールの仮設住宅実態調査レポート(石巻の復興の力になりたい)
- 復興教育支援事業「防災学習すごろく」

6. その他の地域貢献活動	27
---------------	----

- (1)大学施設の市民への開放 27
 - ・学外者の図書館利用
 - ・教室・体育施設等の貸出し
 - ・桜見学(お花見)
 - ・大学施設見学
 - ・ツール・ド・東北

出前授業テーマ一覧	29
行政機関との連携協力 (石巻市、石巻市防災、女川、東松島、登米市)	35

第3号の刊行に寄せて

石 巻 専 修 大 学
学 長 坂 田 隆

「地域貢献ハンドブック」は、地域に開かれた大学として設置された石巻専修大学が、日々取り組んでいる地域貢献活動の一端を広く市民の方々に知っていただくことを目的に、過去5年分の主な活動を、平成22年12月に取りまとめたのが始まりです。

その後、平成22年度の活動を取りまとめ、第2号として発刊し広く配布するための準備をしていましたが、平成23年3月11日に起きた東日本大震災により、学内版報告書のレベルに留まりました。引き続き大震災に伴う影響もあり、しばらく取りまとめが滞っていましたが、平成23年以降の4年分について、今回第3号として取りまとめた次第です。本学への理解を少しでも深めていただく一助になれば幸いです。

平成27年3月

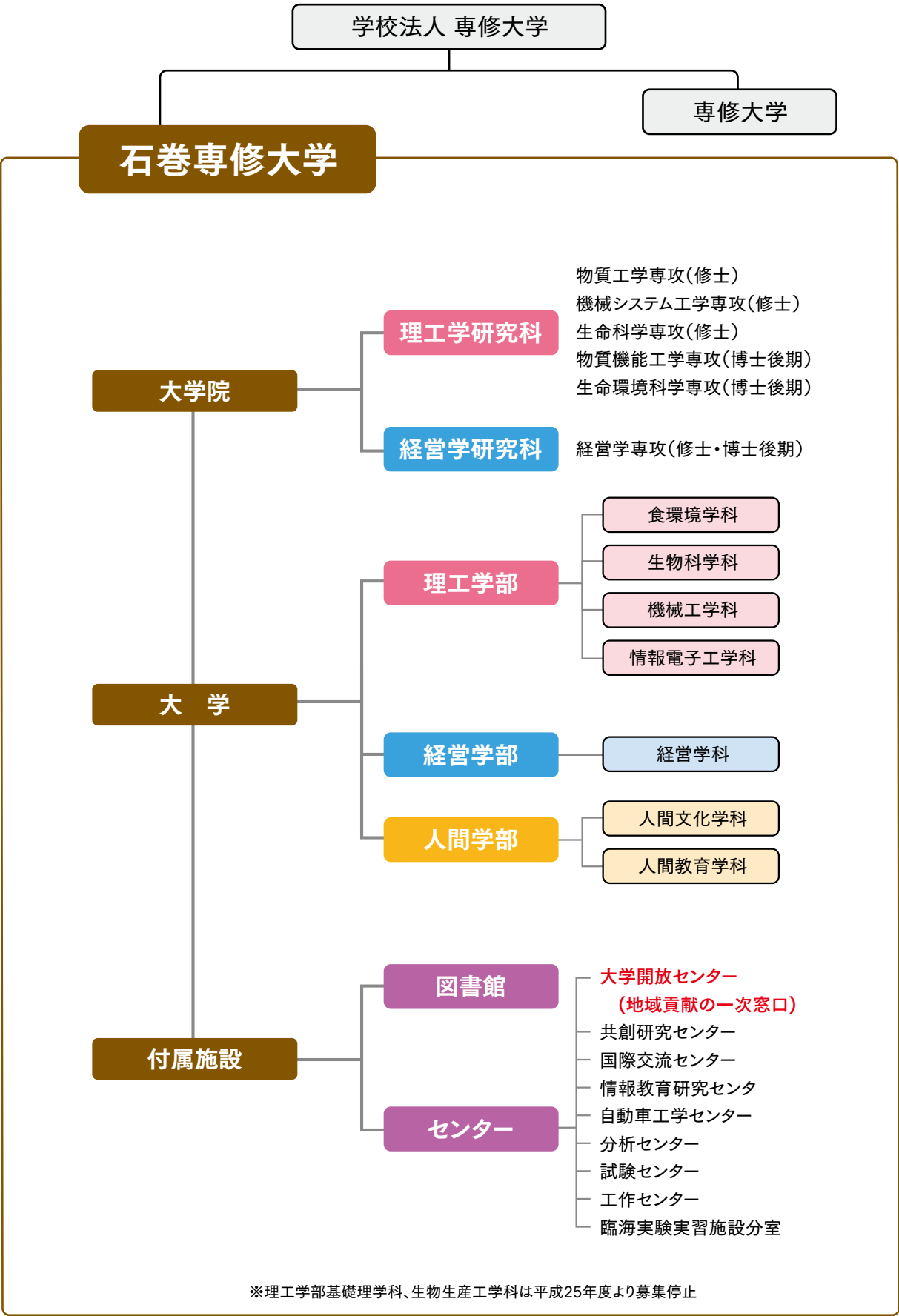
石巻専修大学における地域貢献への考え方

石巻専修大学は専修大学の建学の志を東北において実現すべく開学しました。社会知性の開発を理念(21世紀ビジョン)とし、地域及び国際社会の発展へ寄与することを目的にしています。言い換えれば、幅広い視野をもって多様な価値観を許容しつつ、自ら社会の問題解決のために汗を流す人材の育成を通じて社会貢献していくことが使命です。石巻専修大学は石巻圏域の協力の下に開学しておりますので、この地域を拠点にして地球的な視点での研究教育活動により地域の持続的な発展に寄与していかなければなりません。こうした方向性を堅持しつつ、一次窓口である大学開放センターを中心に、共創研究センター等と連携し、学生及び教職員が主体的となり、積極的に地域活動を進めることとしています。

石巻専修大学の歩み

1989.04	石巻専修大学開学
	理工学部(基礎理学科、機械工学科、電子材料工学科、生物生産工学科)、経営学部(経営学科)設置
	石巻専修大学 開放センター設置
1991.07	工作・試験センター竣工
1993.04	石巻専修大学大学院理工学研究科修士課程(物質工学専攻、機械システム工学専攻、生命科学専攻)、経営学研究科修士課程(経営学専攻)設置
1995.04	石巻専修大学大学院理工学研究科博士後期課程(生命環境科学専攻、物質機能工学専攻)設置
1997.04	石巻専修大学大学院経営学研究科博士後期課程(経営学専攻)設置
1998.04	財団法人大学基準協会の正会員に加盟登録
2000.07	ワシントン大学(アメリカ)と国際交流協定(学部間協定)締結
.10	創立10周年記念新校舎5号館竣工
2002.04	理工学部[電子材料工学科]を[情報電子工学科]に改称
2003.02	モンゴル国立大学(モンゴル)と国際交流協定締結
2005.03	中国石油大学(中国)と国際交流協定締結
2006.09	石巻商業高等学校と高大接続研究事業協定締結
.10	自動車工学センター竣工
.12	東松島高校と高大接続研究事業協定締結
2007.03	石巻信用金庫と連携協力協定締結
.10	温州大学(中国)と国際交流協定締結
	財団法人大学基準協会による大学基準認定(2014年3月31日まで)
2008.02	女川高校と高大接続研究事業協定締結
	石巻市と包括連携協定締結
	女川町と包括連携協定締結
	東松島市と包括連携協定締結
2009.03	登米市と包括連携協定締結
.04	石巻専修大学 共創研究センター設置
.12	専修大学北上高校と高大連携協定締結
2011.03	東日本大震災
.11	石巻市立女子高校と高大接続研究事業協定締結
2012.03	宮城県石巻西高校と高大接続研究事業協定締結
2013.03	宮城県教育委員会と包括連携協力に関する協定締結
.04	人間学部(人間文化学科、人間教育学科)設置
	理工学部2学科を改組(基礎理学科、生物生産工学科を食環境学科、生物科学科に改組)
2014.04	公益財団法人大学基準協会による大学評価(認証評価)認定(2021年3月31日まで)
2015.02	石巻北高等学校と高大接続研究事業協定締結
	宮城県水産高等学校と高大接続研究事業協定締結
.03	東陵高等学校と高大接続研究事業協定締結
	石巻専修大学ユニバーシティハウス(学生寮)竣工

石巻専修大学の組織図



1 地域・学校との連携による学習支援

(1) 子どもたちへの学習支援

青少年のための科学の祭典への協力

「青少年のための科学の祭典」は、石巻大会実行委員会と(財)日本科学技術振興財団が主催し、青少年(主に小学生)に科学の実験を通して、科学の楽しさを体験してもらい、科学への興味を深めてもらうことを目的としています。石巻大会としては、平成13年度から本学を会場に毎年開催されており、会場提供はもちろんのこと、本学の教員、大学生も出展やスタッフなどとの面から協力しています。ちなみに、2014石巻大会では、出展ブースが29、来場者は1,000名ほどでした。

表. 出展者数と来場者数(H23～H26)

開催年度	日 付	会 場	主 催	出展数	入場者数
H23	8/20、21	宮城県慶長使節船 ミュージアム (サン・ファン館)	石巻大会実行委員会/ (財)日本科学技術振興財団・ 科学技術館	67	800
H24	8/19、20	石巻専修大学 2号館教室 および実験室	石巻大会実行委員会/ (財)日本科学技術振興財団・ 科学技術館	30	556
H25	8/11、12	石巻専修大学 2号館教室 および実験室	石巻大会実行委員会/ (財)日本科学技術振興財団・ 科学技術館	50	933
H26	8/10	石巻専修大学 2号館教室 および実験室	石巻大会実行委員会/ (財)日本科学技術振興財団・ 科学技術館	34	900

教育ボランティア

石巻圏域の小学校からの依頼等を受けて、学習等の支援のために大学生をボランティアとして派遣しています。学習支援の他、放課後のスポーツ活動や楽器演奏の指導、時には遊びの相手として、様々な依頼や要請があります。将来教員を目指し教職課程を履修している学生が中心となり、支援活動を行っています。



(2) 幼稚園・小中学校との連携

平成26年度から人間教育学科の学生が石巻市の小学校を訪問し、授業参観を行いました。
これは、拠点校になっている石巻小学校の協力のもとに、専門科目の「保育・教育研究」の中で実施されたものです。
1年生から6年生までの全クラスの授業を公開してくださいました。学生たちは数名のグループが、低・中・高学年・特別支援学級に分かれ、各自が立てた参観の視点に基づきクラスづくりや授業づくり、子どもへの接し方などについて観察しました。
さらに、住吉・湊・稲井の各幼稚園も訪問して、学生達は、園児に混じって一緒に体操をしたり、お弁当をたべたり、読み聞かせを行いました。園児と一緒に行動することで、幼稚園教育の重要性ややりがいなどにも具体的に触れることができました。参観の後、全体会が開かれ各園長先生より、園の一日の様子や年間を通した活動内容、子どもの変化に気づくことの重要性等についての講話がありました。



小学生への出前授業

本学では、本学の教員を地域の小・中学校へ派遣し講義を行う出前授業を実施しています。
平成26年6月13日(金)には、坂田隆学長(専門:比較栄養生理学)が石巻市立山下小学校6年生とその保護者約60人を対象に出前授業を行いました。「だいちょうがはたらくしくみ」を演題に、実演を交えながらわかりやすく説明していました。

平成26年11月6日(木)にも、理工学部情報電子工学科の工藤すばる教授は東松島市立大曲小学校の実験クラブ(4～6年生)25人を対象に「走れコンデンサカー」と題して授業を行いました。生徒達は、手回し充電器を用いてコンデンサカーに充電した後、特設コースを走らせました。実験を通して蓄電の仕組みなどを楽しく学びました。



また、「ふるさと子どもカレッジ(石巻市教育委員会主催)」を受講している市内の小学生5・6年生を対象に出前授業を実施しています。
平成26年12月7日(日)、「ふるさと子どもカレッジ」(主催:石巻市教育委員会)が開催され、理工学部の尾池守教授が「宇宙への飛翔」と題して講演しました。当日は、石巻市の小学5・6年生が参加し、宇宙の起源、ロケットの仕組みや宇宙観光など壮大な宇宙について学びました。子どもたちは、ペットボトルを使ったロケットの打ち上げ実験なども行い、とても盛り上がりました。



中学生の職場体験学習

職場体験学習とは、小中学生が事業所などの職場で働くことを通じて、職業や仕事の実際について体験したり、働く人々と接したりする学習活動のことです。本学も小中学校の要望に応じて職場体験学習に協力しています。

平成26年11月18日(火)・19日(水)、石巻市立蛇田中学校2年生4人が職場体験学習で来学しました。職場体験学習は、中学校の「総合的な学習の時間」の一環として生徒の職業観育成のために行われており、今回、生徒達は図書館で、図書の発注から配架、図書の貸出・返却、蔵書検索などを体験。将来への関心を高め、職業と適性について考えるとともに、社会の一員としての自覚を深める機会となりました。



これまで、以下の高等学校と高大接続研究事業に関する協定を結んでいます。また、専修大学北上高等学校との間では、高大接続に関する協定を結んでいます。

- ・平成18年9月 石巻商業高等学校
- ・平成18年12月 東松島高等学校
- ・平成21年12月 専修大学北上高等学校
- ・平成23年11月 石巻市立女子高等学校
- ・平成24年3月 石巻西高等学校
- ・平成27年2月 石巻北高等学校
- ・平成27年2月 宮城県水産高等学校
- ・平成27年3月 東陵高等学校

石巻圏域高等学校向け大学見学会

平成26年8月23日(土)、石巻地域高等教育事業団、石巻専修大学、石巻地区高等学校長協会の3者連携による大学見学会が本学を会場に開催されました。

この見学会は、本学と宮城県教育委員会の包括連携協定の締結、石巻専修大学人間学部の開設等を契機に3者による連携を強化し、石巻地区の教育力向上を目指すことを目的に新たに計画されました。見学会では、石巻地域高等教育事業団理事の須田善明(女川町長)等の挨拶から始まり、大学の学部紹介、圏域高等学校出身の社会人による講話、施設見学、模擬授業、地域に関する研究・教育の紹介、石巻地区高等教育事業団奨学金説明等が行われました。圏域内高校からは、231人もの生徒関係者の参加となり、大学や大学進学について理解を深めていました。



(3) 高等学校との連携による学習支援

石巻圏域の高校生が来学し、本学教員による高大接続に係る支援授業(講義と実験等)を実施しています。本支援授業は、高校生の課題研究の一環として活用されており、各テーマに分かれて授業や実験に取り組めます。

大学進学を希望する生徒がいる高校には、進路支援の一助として、本学学生がキャンパスライフや卒業研究等の内容をわかりやすく紹介することがあります。

また、本学学生が高校主催のもしくは高校に赴き校内進学ガイダンスにおいて、大学進学を希望する1～2年生向けに、卒業研究発表を行う機会もあります。発表後には少数のグループにわかれ、大学での研究、サークル活動、学生生活などに関する質問に対応するなど交流を図っています。

受講した生徒たちからは「大学進学の意欲が高まった」、「先輩方の話が聞けてよい体験になった」などの感想が寄せられ、進路意識の向上等に寄与しています。

高大接続研究事業等

高校生に大学の高度な教育・研究に触れる機会を提供し、大学での“学び”の内容を理解することで、学習意欲の向上や進路選択の一助とし相互に連携協力して魅力ある教育を実現するため、地域貢献活動の一環として行われている事業です。

高大接続研究における主な事業内容

- (1)高校生に対する大学の授業科目の公開と単位認定
- (2)大学による公開講座の実施
- (3)大学の教員の高校への派遣
- (4)高校の教員の大学への派遣
- (5)相互の施設の開放
- (6)大学生に対する高校の授業科目の公開
- (7)地域との連携の推進
- (8)その他高校と大学の協議の結果に基づき実施する事業

高等学校への出前授業・体験授業

大学が持つ様々な「資産」をもっと社会に広く役立てるため、また「知る喜び」「学ぶ楽しさ」を多くの高校生に体験して欲しいとの想いから、本学は積極的に高等学校への出前授業を行っています。高等学校が出前授業の依頼をしやすいように、専用パンフレットの作成や、ホームページに専用コーナーを設けるなど、知的好奇心を刺激しそうなテーマも多く掲載しています。本学では毎年、相当数の高校からの依頼を受けて出前授業を行っています。大学の授業を体験した高校生からは「大学という世界を感じ興味が深まった」などの意見や感想が多数寄せられます。高校側においても、大学の授業を早期に経験させることの効果から、「総合学習の時間」や「課題研究」などの授業を活用して、さらに機会を増やしつつあります。本学ではそうしたニーズに対し、できるだけ柔軟に対応し協力していくこととしています。

また、本学は、オープンキャンパスとは別に高校等からの依頼があれば随時、高校生等の大学見学を受入れています。大学の授業や研究に触れることで、学習への興味や知的好奇心が喚起され、生徒の卒業後の進路選択に貢献できればと考えています。“見て、触れて”の体験を通して、大学生になることの魅力を感じてもらいつつ、本学の魅力も感じてもらえればと期待しています。

毎年、多くの高校生が本学を訪れ、施設(教室や研究室、実験室、コンピュータ室、自動車工学センター)等の見学、講義や実験等の参観、さらには学食の体験などを通して一足早いキャンパスライフを体験してもらっています。大学見学の際に大学の授業の体験学習を希望する高校もありますので、要望に応じてプログラムに適宜に組入れるようにしています。

表. 平成26年度の主な実績

出前授業等の実施	宮城県22校・岩手県2校・秋田県1校・山形県1・福島県1校に対し、教員33名を講師として派遣し、授業を行った。
体験授業の実施	地域貢献の一つとして、1校(石巻西高等学校(200名)の生徒を対象に小グループ制での体験授業を実施した。

(4) 石巻圏域保育・教育人材育成推進協議会

石巻地域が一体となって保育・教育・文化関係の人材育成を推進し、地域の教育力の向上等を図るための「石巻圏域保育・教育人材育成推進協議会」が発足しました。

協議会には、本学の他、石巻地区の教育委員会、子育て支援課等の保育担当部署、小学校長会等の学校・施設等の連合組織などが参加しています。会長には保育士・教員養成センター長が就任しました。

(5) OB教員と教員志望学生との交流会実施

平成26年度に、本学を卒業した中高の現任教員、人間学部人間教育学科の教員志望の学生との交流会が行われました。これは、教職に就いている本学の卒業生等で組織された「石巻専修大学教育会」と人間学部が連携して実施した企画で、学生が質問をし、OB教員が答える形式で進められました。「大学の時に学んだことで役立つことは何ですか」などの質問が学生から出されると、「勉強も大事ですが、友達や先生だけでなく、社会人も含めて多くの人と交流し、社会性を身につけることも大切です」と、第一線で活躍されている現任教員ならでの適切な助言がなされ、学生達に改めて“先生になりたい”という思いを刺激していたようでした。

2 市民・地域への学習支援

みやぎ県民大学「石巻専修大学開放講座」

平成3年度から継続実施している「みやぎ県民大学(石巻専修大学開放講座)」は、本学に蓄積された教育・研究の成果を広く県民に開放するもので、宮城県教育委員会が主催、(財)石巻地域高等教育事業団が共催している事業です。

毎年、統一テーマを決めて、本学の教員がそれぞれの専門分野に応じて講義を分担し、毎週木曜日夜、本学を会場として開催してきました。老若男女、様々な立場の市民が参加するので、市民のニーズを汲み取りながら統一テーマを決定し、講師それぞれが講義内容に工夫を凝らしながら進めています。



表. 石巻専修大学開放講座の統一テーマ

年度	統一テーマ	受講者数
平成3年度(第1回)	豊かなくらしと自然科学	280名
平成4年度(第2回)	経営学部コース:「地域の時代」と国際化 理工学部コース:自然科学の眼から見て	169名
平成5年度(第3回)	21世紀の豊かなくらしを求めて	151名
平成6年度(第4回)	やすらぎのある町づくりをめざして	96名
平成7年度(第5回)	うるおいのあるくらしと科学	115名
平成8年度(第6回)	ものと心	257名
平成9年度(第7回)	学術とロマン	292名
平成10年度(第8回)	混迷の時代に生きる「夢と遊びどころ」	340名
平成11年度(第9回)	21世紀への誘いー共存をめざして	398名
平成12年度(第10回)	新しいミレニアムを迎えて 第1部「バイオ世紀の生命感」 第2部「情報化とグローバリゼーション」 第3部「新しい価値の創造ー20世紀を総括するー」	249名
平成13年度(第11回)	21世紀に生きるー私たちのくらしと夢	284名
平成14年度(第12回)	学問の散歩みち	254名
平成15年度(第13回)	見えるもの 見えないもの	312名
平成16年度(第14回)	「温故知新」に学ぶ	211名
平成17年度(第15回)	地域づくりとグローバリゼーション	96名
平成18年度(第16回)	学びの窓からみた世界	107名
平成19年度(第17回)	たのしい読書の力学	141名
平成20年度(第18回)	知とところ〜創造する社会〜	144名
平成21年度(第19回)	未来予想図〜これからの世界、そして日本〜	168名
平成22年度(第20回)	知の発展ーどこからきたのか どこへゆくのか	140名
平成23年度(第21回)	復興の道標(みちしるべ)※全5回	79名
平成24年度(第22回)	教育を考える〜震災から学んだこと〜※全8回	105名
平成25年度(第23回)	今、人間として生きるとは?※全8回	149名
平成26年度(第24回)	文化を生きる※全8回	101名

・これまでの延べ受講者累計 4,638名
・平均受講者数 193名

石巻専修大学開放講座in登米市

この講座(全2回)は、登米市との包括連携協定に基づき、平成26年度に初めて企画されたものとなります。

平成26年12月11日(木)、人間学部の佐藤利明教授が「石巻専修大学開放講座in登米」で「地域は文化を創る。文化は地域を造る。」と題した講演を行いました。東北の地域文化についてフィールドワークによる調査研究を行っていることから、講演では岩手県葛巻町の「森のそば屋」を中心とした地域づくりの事例を紹介しました。平成26年12月18日(木)、坂田隆学長が「石巻専修大学開放講座in登米」で「食糧問題と私たち」と題した講演を行いました。講演では食糧問題と密接な関係にある人口予測、世界各地の食糧生産や食物摂取の特徴、日本人の食物摂取の変遷などについて紹介しました。

教員の資質向上に向けた公開講座

宮城県教育委員会との協定に基づく「教員の資質向上のための公開講座」を開催しています。

平成26年度より本学では、石巻圏域の教育・学術の振興及び地域社会の発展と教育人材育成に寄与するために、公開講座として実施しております。なお、本講座は宮城県教育委員会が主催する「10年研」の指定研修となっております。

表. 平成26年度教員の資質向上に向けた公開講座

No.	講座名	講座概要	開催日時	講師名
1	子供と共に伸びる教師	教員として子供とどう関わり、自分を成長させ、他の教職員と協力して学校を活性化していくか	6月14日(土) 9:30～11:00	人間学部 教授 木村 民男
2	教科指導の基礎・基本の確認と学習効果	教科指導の基礎基本を確認し、子供を伸ばすための探究・追究型の指導法と評価の在り方	6月28日(土) 9:30～11:00	経営学部 名誉教授 阿部 康一
3	子供を伸ばす教科指導の方法	子供を伸ばすための指導法などを追究する ～算数科教育を中心に～	7月12日(土) 9:30～11:00	人間学部 特任教授 田中 秀典
4	カウンセリングの方法と技術	最近の子供たちが抱える課題とカウンセリングマインド	7月26日(土) 9:30～11:00	人間学部 教授 佐藤 正恵
5	生徒指導課題への対応	最近の生徒指導上の課題(いじめ)について具体的な取り組み例を基に対応を考える	8月9日(土) 9:30～11:00	人間学部 特任准教授 新福 悦郎

科目等履修生・聴講生の受け入れ

本学では、学習機会の多様化に応え、社会人の生涯学習の振興に資することなどを目的に、科目等履修生制度や聴講生制度を設けています。募集は、前期・後期の年2回行っています。

科目等履修生は、興味・関心のある授業科目や資格取得等に必要の授業科目だけを選んで、学生と同じ時間割に沿って学修できます。科目等履修生は、試験を受け、レポートを提出することなどによって単位を取得することができます。

聴講生は石巻専修大学の理工学部、経営学部や人間学部で開講している授業科目を、単位取得を目的にしないで教養や専門的な知識を深めたい、あるいは大学で若い人たちと一緒に学んでみたいと考えている方に最適な制度です。



出前講座・講師派遣

本学では、建学の精神である「社会に対する報恩奉仕」を東北の地で実践し、さらに、この建学の精神は21世紀ビジョンとして「社会知性の開発」として顕現されています。本大学は、社会貢献活動として大学の知を広く地域・社会に還元するため、出前授業を積極的に実施しています。地域の教育関係機関や市民団体及び企業等のニーズに対して、石巻専修大学の教員が出向して講義等を行います。出前授業のテーマは、別表(P29.出前授業テーマ一覧)のとおりで、対象を「児童」・「高校生」・「大人」と分けています。提供する分野・メニューの中からお選びいただき、45分～90分実施します。メニューにない分野がありましたら、ぜひご相談ください。

石巻専修大学共創研究センター企画

石巻市役所が駅前に移転したことを契機に、本学は石巻市の協力を得て、新庁舎内の一角(市民交流スペース)を利用した「石巻専修大学サテライトキャンパス」を、平成22年度に開講しました。震災の影響もあり、名称を共創研究センター研究プロジェクト事業「社会還元事業」に変更して、石巻圏域の様々な場所で、本学で蓄積された知の還元、研究プロジェクトで得られた成果等を社会に対して還元、学術と日常生活との関わりや学術がもつ意味に対する理解を深める機会を提供しています。

石巻専修大学共創研究センタープロジェクト
2012年度(平成24年度)

題 目	研 究 者	期 間
ISU健康支援プログラムの石巻地域への展開	理工学部准教授 山内武巳(代表) 東北大学大学院 教育情報学研究部教授 北村勝郎 理工学部客員教授 時光一朗 石巻市保健福祉部健康推進課 課長 伊藤慶子 技術主幹 高橋由美、石川和江、遠藤美由貴	H24.6.1 ～H25.3.31
被災地復興応援「詩」募集プロジェクト	理工学部教授 山崎省一(代表) 理工学部教授 足立岳志 理工学部特命教授 近藤裕子 経営学部非常勤講師 永山貴洋 共創研究センター特別研究員 佐藤誠子、保原和子、渥美佳子	H24.6.1 ～H25.3.31

地域貢献活動の実績

題 目	研 究 者	期 間
遊びを通して地域がつながる 〜こどもの遊び場づくりと 地域づくり	理工学部教授 大谷尚文(代表) 石巻復興支援ネットワーク代表 兼子佳恵 理工学部准教授 廣瀬裕作 石巻復興ネットワーク事務局長 渡部慶太 経営学部准教授 山崎泰央 にじいろクレヨン代表 柴田滋紀 プロジェクト結理事長 長尾彰 プロジェクト結理事 中川綾	H24.6.1 ～H25.3.31
エンジョイ・スーパーサイエンス	理工学部教授 丸岡章(代表) 理工学部教授 相馬弘年 理工学部教授 鈴木均 経営学部教授 阿部康一 理工学部教授 佐々木洋 理工学部准教授 輪田直	H24.6.1 ～H25.3.31

2013年度(平成25年度)

題 目	研 究 者	期 間
エンジョイ・スーパーサイエンス	理工学部特任教授 丸岡章(代表) 人間学部教授 鈴木均 経営学部教授 阿部康一	H25.5.31 ～H26.3.31
ISU健康支援プログラムの 石巻地域への展開	人間学部准教授 山内武巳(代表) 人間学部助教 永山貴洋 理工学部客員教授 時光一郎 石巻市健康部健康推進課 沓沢はつ子、高橋由美、石川和江、千田裕子	H25.5.31 ～H26.3.31

2014年度(平成26年度)

題 目	研 究 者	期 間
ノーバディズ・パーフェクト・ プログラムによる育児支援	人間学部教授 佐藤正恵(代表) 石巻市教育委員会 石巻市中央公民館 主幹 三浦敏広 (特非)石巻復興支援ネットワーク 代表理事 兼子佳恵	H26.6.1 ～H27.3.31
ISU健康支援プログラムの 石巻地域への展開	人間学部准教授 山内武巳(代表) 石巻市健康部健康推進課 人間学部助教 永山貴洋 課長 沓沢はつ子 特別研究員 時光一郎 技術課長補佐 高橋由美 技術主幹 石川和江 技術主幹 千田裕子	H26.6.1 ～H27.3.31

3 産学官連携活動

(1) 産学官の交流

本学は、(社)みやぎ工業会や石巻商工会議所が主催となる「産学官グループ交流会」等に参加して、地域連携や産学官連携の事例収集を行い、石巻圏域の企業との連携を図っています。

また(財)みやぎ産業振興機構が主催している「産学官連携フェア」等にも毎年参加し、研究・技術開発成果や産学官連携事業の取組等を広く紹介しています。

平成26年度の展示

- ・防災・災害用『緊急電源つなぐ君』の開発
- ・復興大学(石巻センター)による地域復興支援ワンストップサービスの活動紹介

石巻地域産学官グループ交流会 IMプロジェクト

平成20年5月、石巻地域産学官グループ交流会「自動車関連産業集積部会」から、発展的に独立をしたプロジェクトで、企業13社が集まり、「自動車関連の新規部品を開発し、開発した商品を自動車関係企業へ提案・売り込みを目指す」を目的に開発を行っています。同プロジェクト顧問は、山本憲一理工学部教授が務め、地域企業の技術力の向上とともに、自動車関連企業のニーズなどを学んでいます。

登米の地域資源を巡る旅

平成26年11月21日(金)、経営学部の学生が「登米の地域資源を巡る旅」として、登米市内の6次産業の企業を訪問しました。地域活性化に志を持つ教員と学生が、大学の視点による新たな地域資源を発掘しようと参加しました。今回は、登米市との包括連携協定に基づいて企画されたもので、後日、登米市関係者と報告会を行い、結果を共有しました。



登米市産業フェスティバルへの出展

毎年、約40の企業・団体が出展する「登米市産業フェスティバル」に本学も協力しています。このフェスティバルは、新たな産業の創造を目指して開催されるもので、毎年多くの人が来場しています。また、フェスティバル開催中は、登米総合体育館「とよま蔵ジウム」内の展示・販売コーナーの商工業部門の様子や様々な実験・体験などの様子をインターネットで中継するなどの取組みも行っています。

これまで、石巻専修大学移動ラボ(こども科学実験教室)として「液体窒素であそぼう」や「発砲スチロールでの記念手形」、「体のゆらぎを観察しよう」、「自走カーロボットプログラミング体験」、「AMラジオ作成」などを行ってきました。大人から子供まで多くの方が科学実験を体験し、楽しんでいました。



受託研究事業の受入れ

本学では、学外から特定課題について調査研究等の依頼や要請があった場合、その内容等に応じた研究支援を行っています。特に、毎年十数件の依頼があり最も一般的な研究支援は、企業等が一定の研究費を提供する形で研究開発を依頼する受託研究の制度です(下表参照)。この他にも、研究費は寄付金の形で提供いただき、研究テーマにやや幅をもたせた奨学寄付金や、双方で提供あるいは支援できる条件等を確認しながら共同研究として取組む方法などもあります。

表. 受託研究

年度	件数	研究費
平成18年度	12件	8,975,750円
平成19年度	11件	11,786,133円
平成20年度	9件	9,126,730円
平成21年度	12件	9,239,216円
平成22年度	10件	6,118,867円
平成23年度	2件	3,100,000円
平成24年度	7件	80,425,252円
平成25年度	10件	69,143,919円

技術相談

本学の大学開放センターが窓口となり、随時、技術相談を受け付けています。また、石巻信用金庫経由とKCみやぎグループ経由でも受け付けています。

技術相談の内容により、大学開放センターが相談に応じてその分野に詳しい教員を交えて、企業担当者と面談を行います。面談の結果、本学で対応可能なものは、継続して相談を実施し、本学で対応できないものについては、別機関の紹介を行っています。

研究員の受入れ

本学では、地域の企業、自治体、各種団体等から専門知識・技術等の修得を目的とする職員等を研究員として、一定期間受入れる制度を設けています。研究室、実験室等において、指導教員から直接専門的な指導を受けることができます。

表. 研究員の受入れ年度

年度	受け入れ人数(内訳)
平成18年度	1名(企業1名)
平成19年度	2名(企業2名)
平成20年度	3名(自治体1名、企業2名)
平成21年度	2名(自治体1名、企業1名)
平成22年度	1名(自治体1名)
平成25年度	1名(自治体1名)
平成26年度	1名(自治体1名)

(2) 石巻信用金庫との連携事業(ISプロジェクト)

平成19年3月、相互の連携と協力をより深め、地域の活性化と産業の振興に寄与するため、石巻信用金庫と石巻専修大学は「連携協定」を締結しました。

連携事業の内容は、①地域の活性化及び産業の振興に関する情報、技術等の活用、②地域の活性化及び産業の振興に資する産学連携事業の企画及び実施、③地場産業の振興へつながる大学の研究への助成と研究成果等の産業への移転、④大学発ベンチャーに関する情報交換及び支援、⑤インターシップ等による人材の育成、⑥講習及びセミナーの開催、⑦その他本協定の目的を達成するために必要な事業の7項目で、これまで行われてきた主な活動をご紹介します。

「産学金連携コーディネーター認定研修」実施

石巻地域の産学連携の促進には、企業ニーズと大学シーズ等をマッチングさせ、さらにビジネス化するまでお世話するコーディネーターが不可欠との考えから、石巻信用金庫の職員を対象にコーディネーターになるための研修会を平成21年度から実施していま



す。本研修は、県内初の取り組みとなっています。

平成25年度は大学開放センターではISプロジェクトのさらなる活発化に向け、産学金連携を促進させる目的として、石巻信用金庫の職員(22名)を対象に、「平成25年度産学金連携コーディネーター認定研修」を実施しました。本学教員から、石巻専修大学の知的財産・ニーズの紹介が行われました。その後、杉田大学開放センター長が講師を務め、「石巻地域の企業課題をどう捉えるか」や「コーディネーターは何をすべきか」等の班を編成し、ワークショップ形式にて議論・発表が行われました。3日間の研修を修了した者には、認定書を授与いたしました。

大学演習林で里山を学ぶ

この活動は、平成20年度から平成22年度まで「日本一きれいな海水浴場 いしのまき」を目標に石巻市内、長浜海浜公園の清掃を行いました。平成26年度に、ISプロジェクトのさらなる活発化に向け、震災後活動が停止していた環境活動を「地域の環境保全活動」として実施することとなりました。本学の演習林において本学学生と石巻信用金庫職員が合同で、「里山の管理と活用」をテーマに体験型授業として実施しました。この取り組みは、地域の環境保全活動の視点から、将来の地域の緑化や環境保全につながる活動に発展させることを目指しています。地域の環境保全活動を通じて学んだことをどのように生かすことができるか等、議論を深めました。



石巻地域観光シンポジウム

ISプロジェクトと宮城県東部地域振興事務所がタイアップして「石巻地域観光シンポジウム」を実施しています。三陸自動車道路の延伸などの環境変化を踏まえ、豊かな地域資源を活かした広域観光交流の推進や、多彩な食による地域間交流の拡大に向けた課題や解決策を探る目的で開催しています。東日本大震災により壊滅的な被害を受けた石巻地域の商工業・観光・宿泊施設等は、復旧・復興の段階にあるが、三陸自動車道の4車線化・JR仙石線の全線開通など道路や鉄道などの公共インフラの復旧・整備の進展とともに、防災意識の高まりによる復興ツーリズム、大型観光キャンペーンをはじめとする観光イベントの取組などにより、石巻地域への訪問者の増加が期待されています。



4 地域活性化に向けた連携協力

(1) 行政機関等との連携

行政運営への協力

委員会・審議会等への協力

各自治体には、人材育成、生涯学習、地場産業の振興や街づくり、地域の活性化を図る目的等により各種審議会や委員会が設置されています。本学にはこうした自治体から毎年、委員委嘱の要請が数多く寄せられますが、地域貢献の一環から協力してきました。大学に直接依頼があったものを整理すれば下表の通りです。

この中で、石巻市からの依頼が、開学の経緯や大学の立地等の関係から群を抜いて多くなっています。

表. 委嘱された主な委員の一覧	
公益財団法人慶長遣欧使節船協会評議会評議員	石巻市子どもの権利推進委員会委員
石巻市複合文化施設整備市民懇談会委員	石巻市防災会議における委員
石巻市環境審議会委員	石巻市中心街地活性化検討市民会議における委員
石巻市子ども・子育て支援事業計画策定委員	石巻市地域包括ケア推進協議会委員
学校評議員会委員	石巻市地域福祉委員会委員
石巻市農政対策審議会委員	警察署協議会委員
石巻市介護保険運営審議会委員	石巻復興協働プロジェクト協議会アドバイザー
石巻市地域密着型サービス運営委員会委員	石巻市地域包括支援センター運営協議会委員
石巻市障害福祉推進委員	全国大学体育連合会員

学校評議員の委嘱

各学校は、「学校・家庭・地域が連携協力しながら一体となって子どもの健やかな成長を担っていくため、地域に開かれた学校づくりをより一層推進する」観点から、学校評議員を置くことができました。こうした措置を受けて、地域の中・高等学校から、本学の教員に対する学校評議員への委嘱依頼も近年増えつづけています。

石巻圏域高等学校と石巻専修大学の懇談会

石巻専修大学と圏域高等学校は、地域の教育文化の振興に向け、高等学校と高等教育機関との相互理解を深めることなどを目的に、(財)石巻地域高等教育事業団が進行する形で、開学時より毎年の懇談会を開催し意見交換を行ってきました。

特に、平成25年度には、本学と宮城県教育委員会の包括連携協力に関する協定の締結、人間学部の開設など契機に、3者が連携を強化し、東日本大震災により被災した石巻地区の教育力の向上・発展を目指すことが合意され、平成26年度からは合意に基づき3者連携の強化を図り事業が実施されました。

【確認事項(概要)】

- ・3者による懇談会の枠組みを維持し段階的に強化方策を模索する。
- ・全体的な定例会を年2回(5月・2月)実施する。
- ・現在、大学や高等学校主導で行っている行事や企画の中から、無理なく実施可能なものをいくつか選び3者の事業として位置づけ直し実施する。
- ・全体的な定例会の他に担当者レベルの分科会を設け実施する。

【平成26年度の事業】

☆3者事業

- ・石巻圏域高等学校向けの大学見学会(P7を参照)
- ・教員向け研修(※県教育委員会が義務とする10年研の対象事業)(P10を参照)

☆協力を図る企画

- ・センター試験模試 ・中学生への高校説明会 ・大学開放講座
- ・オープンキャンパス等

石巻圏域首長・議長と石巻専修大学の懇談会

「石巻専修大学と圏域首長・議長懇談会」は、本学と地域自治体の行政・議会の長とが連携等について意見交換を行うため、(財)石巻地域高等教育事業団が主催して毎年行っている会議です。

この懇談会は、平成14年度から開催されており、本学が立地する石巻圏域(現在の石巻市、東松島市、女川町)の自治体の市長・町長および議会議長が一同に会して、大学と地域自治体との連携・協力体制について意見を交換する場となっています。

平成26年度は、本学からは、坂田学長をはじめ各学部長、研究科長、学内委員会委員長などが出席し、大学の特色ある取組みについて報告した後、懇談が行われました。首長・議長からは、震災からの復興に向けて大学と圏域自治体の連携による地域活動に期待する意見や、教育研究上の更なる協力を求める意見が出るなど、活発な懇談会となりました。

石巻地域連携協力推進会議

「石巻地域連携推進協力会議」は、平成20年2月4日に締結した「石巻市と石巻専修大学との連携に関する協定書」に基づき設置している仕組みで、石巻市と本学が連携協力し、個性豊かな地域社会の形成と地域課題の解決を図り、地域の発展に貢献することを目的としています。

石巻地域連携推進会議では、次の事項を継続的に協議しています。

- ・地域づくり・まちづくりの推進に関すること。
- ・観光振興や産業振興など地域経済の発展に関すること。
- ・環境の保全及び防災対策の推進に関すること。
- ・健康づくりに関すること。
- ・住民との協働の推進に関すること。
- ・教育・文化の振興及び生涯学習の推進に関すること。
- ・地域の国際化・国際交流の推進に関すること。
- ・その他相互に連携協力することが必要と認められる事項。



(2) 地域課題解決に向けた研究活動

本学では開学以来、学内外の研究資金等を活用して、多くの教員や大学院生が地域に関連した研究テーマで、あるいは地域の資源等を実験試料に使って研究を行っています。特に、地域関連研究を助成するIS奨学研究費(平成7年度～)及びIK地域研究費(平成8年度～)の制度発足により活発化しています。平成21年度設置した共創研究センターの研究プロジェクト支援事業により、地域課題解決に向けた研究活動はますます盛んになるものと期待しています。以下にそうした地域関連研究の活動事例の一部を紹介します。

表. IS奨学研究費一覧

	所属・職名	氏 名	研究課題
平成二十三年 度	理工学部 助手	臼井 利典	細胞性粘菌Dictyostelium discoideumのRNA結合性タンパク質DlaAの分子遺伝学的解析
	経営学部 准教授	益満 環	3Dプリンタ活用による石巻市沿岸部の復元立体模型の製作に関する研究
平成二十四 年度	理工学部 准教授	高橋 智	ヨシ繊維を用いたグリーンコンポジットの創製に関する基礎的研究
平成二十五 年度	理工学部講師	川村 暁	自動車組込み用途を指向した組込みCPUの性能評価に関する研究
	経営学部 助教	関口 駿輔	石巻圏域における東日本大震災からの復興にむけた最適都市構造の導出に関する実証分析～GIS(地理情報システム)を用いたエリアごとの商業活動比較優位抽出～
平成二十六 年度	理工学部 助教	木村 健司	石巻地域における情報系産業育成のための基盤づくり
	経営学部 助教	関口 駿輔	石巻圏域における財政推計～プロジェクトファイナンスの可能性に関する基礎研究

表. IK地域研究費一覧

	所属・職名・研究代表者		研究課題
平成二十三 年度	経営学部教授	伊藤 宣生	仮設住宅に居住する買い物弱者に対する地域商店街・地域事業者のサービス創出に関する研究
	共同研究者 経営学部 准教授	石原 慎士 准教授 李 東勲	
	経営学部教授	関根 慎吾	石巻地区被災体験アーカイブ化と復興まちづくりに関する研究
	共同研究者 経営学部 准教授	山崎 泰央 准教授 竹中 徹 助教 田村 真介	
平成二十四 年度	理工学部准教授	鈴木 英勝	三陸沿岸に水揚げされる一般大衆魚類の価値形成のための基礎的検討
	共同研究者 経営学部 准教授	石原 慎士 准教授 李 東勲	
平成二十五 年度	理工学部教授	福島 美智子	放射性セシウムによる牡鹿半島の環境汚染状況のモニタリング
	共同研究者 理工学部 教授	松谷 武成 教授 根本 智行	
平成二十六 年度	経営学部准教授	竹中 徹	東日本大震災に起因して設立された非営利団体(ボランティア団体)の持続可能性に関する調査・研究
	経営学部准教授	舩井 道晴	石巻地域におけるICT産業活性化に関する研究および若年層への情報教育の実践
	人間学部 特任准教授	新福 悦郎	教職員の職能成長を目指すいじめ判決書学習による人権教育の事例研究ー石巻地域の教職員研修を通してー

石巻専修大学共創研究センター研究プロジェクト

2012年度(平成24年度)

題 目	研 究 者	期 間
災害時のエネルギー源としての水素燃料電池の試験運用	理工学部准教授 惠原貴志(代表) 理工学部准教授 指方研二 理工学部教授 吉原章 理工学部研修生 高橋洋香、佐々木太一、平岩悠文	H24.6.1 ～H25.3.31
放射能の長期モニタリングに適した生物の検討	理工学部教授 松谷武成(代表) 東北大学名誉教授 秦正弘 理工学部教授 根本智行 協力者:阿部悟、渡辺茂、渡辺允浩 理工学部教授 福島美智子	H24.6.1 ～H25.3.31
震災からの石巻地域における企業再生実態調査ー電子書籍による次世代への提言ー	経営学部教授 岡野知子(代表) 経営学部准教授 田村真介 理工学部講師 川村暁	H24.6.1 ～H25.3.31
小型船舶の停船時横ゆれ防止装置の開発	理工学部教授 高津宣夫(代表) 理工学部教授 若月昇 理工学部教授 亀谷裕敬 (株)千葉鉄工所取締役 千葉竜太郎	H24.6.1 ～H25.3.31
東日本大震災で被災した企業の事業継続策に関する産学金連携による実証的研究	経営学部准教授 李東勲(代表) 山徳平塚水産株式会社 経営学部准教授 石原慎士 代表取締役社長 平塚隆一郎 理工学部准教授 鈴木英勝 株式会社木の屋石巻水産 石巻信用金庫 常勤理事 高橋誠一 営業部主任 鈴木誠	H24.6.1 ～H25.3.31
大学間および地域間交流を目指したワンセグ用番組制作プログラムの開発	経営学部教授 湊信吾(代表) 石巻コミュニティ放送株式会社 経営学部准教授 益満環 営業部長兼技術部長 今野雅彦 経営学部助教 舩井道晴 常務取締役 高須賀精一郎 専修大学ネットワーク情報学部 取締役相談役 鈴木孝也 教授 福富忠和 富士通インテリジェントサービス本部 講師 藤原正仁 企画開発部マネージャー 辻村仁志 企画開発部プロジェクトリーダー 山本充彦	H24.6.1 ～H25.3.31

地域貢献活動の実績

題 目	研 究 者	期 間
大型客船寄港による歓迎イベントの企画・運営及び地域への経済波及効果の測定	経営学部特任教授 清水義春(代表) 経営学部教授 丸岡泰 経営学部助教 庄子真岐 石巻市建設部河川港湾室 主任主事 及川英明	H24.6.1 ～H25.3.31
有用海産微細藻類を用いた大量培養の効率化に関する研究	理工学部教授 佐々木洋(代表) 理工学部准教授 太田尚志 (株)スメーブジャパン 研究員 平岡正明 (株)スメーブジャパン 社長 原芳道	H24.6.1 ～H25.3.31
ニホンジカの牡鹿半島系北上ルートと五葉山系南下ルートの解明	理工学部教授 土屋剛(代表) 理工学部教授 根本智行 理工学部教授 柴田清孝 大日本猟友会宮城県猟友会 石巻支部支部長 永松重信	H24.6.1 ～H25.3.31

2013年度(平成25年度)

題 目	研 究 者	期 間
東日本大震災による被災と学生の健康指標等の関係に関する調査研究	理工学部教授 坂田隆(代表) 事務部事務課 千葉友子 特別研究員 芳賀めぐみ	H25.5.31 ～H26.3.31
復興ボランティア学の構築に関する研究	経営学部教授 山崎泰央(代表) 理工学部教授 綾皓二郎 経営学部教授 関根慎吾 経営学部教授 杉田博	H25.5.31 ～H26.3.31
石巻市の地域性を生かした産学・異業種連携による商品開発手法に関する研究	経営学部教授 石原慎士(代表) 経営学部准教授 李東勲 理工学部准教授 鈴木英勝 山徳平塚水産株式会社 代表取締役 平塚隆一郎 有限会社島金商店 代表取締役 島英人	H25.5.31 ～H26.3.31
石巻地域における震災からの企業再生実態調査ー電子書籍による次世代への提言ー	経営学部教授 岡野知子(代表) 経営学部准教授 田村真介 理工学部講師 川村暁	H25.5.31 ～H26.3.31
GPSと遺伝子集団解析法を利用したニホンジカ駆除法の確立	理工学部教授 土屋剛(代表) 理工学部教授 根本智行 理工学部教授 柴田清孝 大日本猟友会宮城県猟友会 石巻支部支部長 永松重信	H25.5.31 ～H26.3.31
石巻港の客船歓迎行事を通じた体験型観光プログラム開発	経営学部教授 丸岡泰(代表) 経営学部特任教授 清水義春 人間学部准教授 庄子真岐	H25.5.31 ～H26.3.31
いしのまきワンセグによるコンテンツの制作と地域間交流	経営学部教授 湊信吾(代表) 経営学部准教授 益満環 経営学部准教授 舛井道晴 石巻コミュニティ放送株式会社 営業部長兼技術部長 今野雅彦 富士通インテリジェントサービス本部 企画開発部 鈴木雅人	H25.5.31 ～H26.3.31
塩と海をキーワードにした石巻圏の活性化を目指した資源発掘	理工学部教授 角田出(代表) 人間学部教授 佐藤利明 理工学部准教授 太田尚志 理工学部助手 高瀬清美	H25.10.28 ～H26.3.31

題 目	研 究 者	期 間
海水中の放射性セシウムの固相濃縮法による前処理法の検討	理工学部教授 福島美智子(代表) 理工学部教授 松谷武成 理工学部教授 根本智行	H25.10.28 ～H26.3.31
酸化ガリウムを用いた深紫外光センサの開発	理工学部教授 中込真二(代表) 理工学部教授 國分義弘 理工学部教授 安田隆	H25.10.28 ～H26.3.31

2014年度(平成26年度)

題 目	研 究 者	期 間
東日本大震災による被災と学生の健康指標等の関係に関する調査研究	理工学部教授 坂田隆(代表) 事務部 千葉友子 特別研究員 芳賀めぐみ	H26.6.1 ～H27.3.31
石巻まちあるきコースマップの制作	人間学部准教授 庄子真岐(代表) 経営学部特任教授 清水義晴 人間学部教授 佐藤利明	H26.6.1 ～H27.3.31
極低濃度の放射性セシウムの濃縮法の検討とその応用	理工学部教授 福島美智子(代表) 理工学部教授 松谷武成 理工学部教授 根本智行 理工学部教授 依田清胤	H26.6.1 ～H27.3.31
石巻市の食文化を生かした製品開発の方策に関する研究	経営学部教授 石原慎士(代表) 山徳平塚水産株式会社 代表取締役社長 平塚隆一郎 有限会社島金商店 代表取締役社長 島英人 農事組合法人舟形アグリ 代表理事 佐々木茂	H26.6.1 ～H27.3.31
メディアミックスによる地域活性化手法の構築	経営学部准教授 舛井道晴(代表) 経営学部教授 湊信吾 石巻コミュニティ放送株式会社 営業部長兼技術担当 今野雅彦	H26.6.1 ～H27.3.31
石巻市における交通事故情報共有システムの開発	経営学部准教授 益満環(代表) 経営学部教授 佐々木万亀夫 理工学部准教授 高橋智	H26.6.1 ～H27.3.31
GPSおよび遺伝子解析によるニホンジカ駆除法の確立	理工学部教授 土屋剛(代表) 理工学部教授 柴田清孝 人間学部教授 恵原貴志 宮城県猟友会石巻支部 支部長 永松重信	H26.6.1 ～H27.3.31

(3) 学生・教職員の地域貢献活動

石巻川開き祭りへの参加

石巻川開き祭りは、伊達政宗の命により北上川を開削した川村孫兵衛重吉の偉業をたたえ、大正5年から始まった由緒あるお祭りです。大学も学生も開学以来、様々な形で祭りに関わっています。このように、多くの学生が参加するとともに、自らも積極的に楽しみ、石巻市民に留まらず、お祭りに来た観光客などとも交流をはかりました。



孫兵衛競漕



大縄引き



流燈関係ボランティア



大漁踊り



学生ブース



花火屑拾いボランティア

表. 平成26年度参加種目一覧

種目等	参加人数	日時・場所・詳細
流燈関係ボランティア	50名	7月31日(木)15時～ 旧石巻リバーサイドホテルにて行われる燈籠作り、内海橋上流からの流燈作業に参加した。
大縄引き	24名	7月31日(木)11時～ 立町通りで行われる大縄引き大会に人間学部、体育会の2チームが参加した。 人間学部はA会場1試合目、体育会はB会場5試合目に登場した。
孫兵衛競漕(一般)	20名	7月31日(木)10時45分～ 石巻大橋からゴールを目指した。 支援ボランティアサークル“ひだまり”メンバーを中心に参加した。
大漁踊り	45名	8月1日(金)16時～ 石巻市社会福祉協議会前から七十七銀行前までを踊り歩いた。 女子学生を中心にお祭りに華を添えた。
花火屑拾いボランティア	46名	8月2日(土)6時30分～ 石巻市中瀬で行われる前日の花火大会の屑拾いボランティアに参加した。

石巻専修大学「石鳳祭」

石鳳祭とは、学生サークルの石鳳祭実行委員会が中心になって企画・実施している大学祭です。

平成26年度のテーマは「Innovation～革新～」。今年で25周年を迎えた石鳳祭ですが、今までの伝統を受け継ぎつつ、さらに楽しい石鳳祭となるように、ご来場していただいたお客様が満足してお帰りいただくためにも内側から変えて新たな一歩を踏み出そうという願いを込めています。オープニングセレモニーでは、来場者への散餅(餅まき)を行い、祝砲と共に2日間の祭りがスタートしました。実行委員会が考案した催し物のほか、芸人「響」さんのコントや本学の学生による模擬店・地場産品フェア・フリーマーケットなどの企画やイベントでキャンパス内は大賑わいとなりました。特に、アニメソング界で知られる「影山ヒロノブ」さん「遠藤正明」さんのライブ、クレヨンしんちゃん(野原しんのすけ役)の矢島晶子さんの石巻ワンセグ公開収録、70年代後半に「Mr.サマータイム」「アメリカンフィーリング」などの大ヒット曲を出したコーラスグループ「サーカス」の特別コンサートなど、大いに盛り上がりました。



多くの在学生・卒業生・地域の皆様が来学され、充実した石鳳祭となりました。

自動車工学コース「学生整備プロジェクト」に協力

理工学部機械工学科自動車工学コースの4年次生が日本カーシェアリング協会の「学生整備プロジェクト」に協力し、日頃の学びを被災地支援にいかしました。

このプロジェクトは、石巻市内の仮設住宅と住宅避難地域に共同利用車両を提供している一般社団法人日本カーシェアリング協会が平成23年秋からシーズンごとに実施しているもので、これまで本学は整備施設の提供などの協力をしてきました。

平成26年12月、本格的な冬入りを控えた時期ということで自動車工学コースの4年次生22人は、自動車工学センター長の山本憲一教授らの指導を受けながら、シェアリング車両46台のオイルの交換やタイヤの履き替え、各部のチェックなど1台1台丁寧に整備・点検を行いました。



客船パシフィック・ビーナスの寄港を歓迎

石巻港に客船が入港しました。平成23年度からこの客船の寄港を歓迎するイベントに経営学部の学生が参加しました。学生は、石巻圏域の協力団体と共に、観光PR、津波防災ビルの紹介等を行うコーナーを準備し、来場者をおもてなしいたしました。



石巻わかめ料理創作グランプリ

平成26年度に本学で石巻特産のわかめのよさを市民の人に知ってもらい、活用していただくとともに、日本中の人にも石巻のわかめを、気軽に日常的に利用してもらうために「石巻わかめ料理創作グランプリ」を企画し、実施することとなりました。

仙台七夕まつりで学生が石巻をPR

平成25年8月6日(火)から8日(木)、仙台七夕まつりで「石巻復興応援プロジェクト」としてブースの出展を行いました。

学生から来場者に対して「石巻地域が復興に向けた様子・姿(人々の思い)、石巻に足を運んでもらう(観光に来てもらう)」ことを伝えてきました。出展の内容は、板返しのからくりを使用したサン・ファン・パウティスタ号、石巻復興願いアート短冊とパネル展示を行いました



被災者支援団体へ業務改善の提案を行う

平成26年9月1日(月)、経営学部の舩井ゼミ(指導・舩井道晴准教授)は東日本大震災以降、自動車の共同利用事業を進めている一般社団法人「日本カーシェアリング協会」の業務改善を行うプレゼンテーションを行いました。

これは、株式会社NTTデータ(本社・東京)が石巻市で展開しているIT技術を活用した被災地支援事業の一環で、平成26年7月下旬頃からNTTデータとイメージ・ソリューション(石巻市)、舩井ゼミが協力して活動を進めてきました。

舩井ゼミ生13人がA・B・Cの3チームに分かれ、夏休みを利用して聞き取り調査や分析を行い、浮かび上がった問題点についてNTTデータとイメージ・ソリューションのシステムエンジニアなどのアドバイスを受けながら、業務改善提案をまとめました。

舩井ゼミは協力企業とともに自分たちのアイデアの実現に向け、さらに実践的な取り組みを試みていきます。

「復興ボランティア学」のスタート

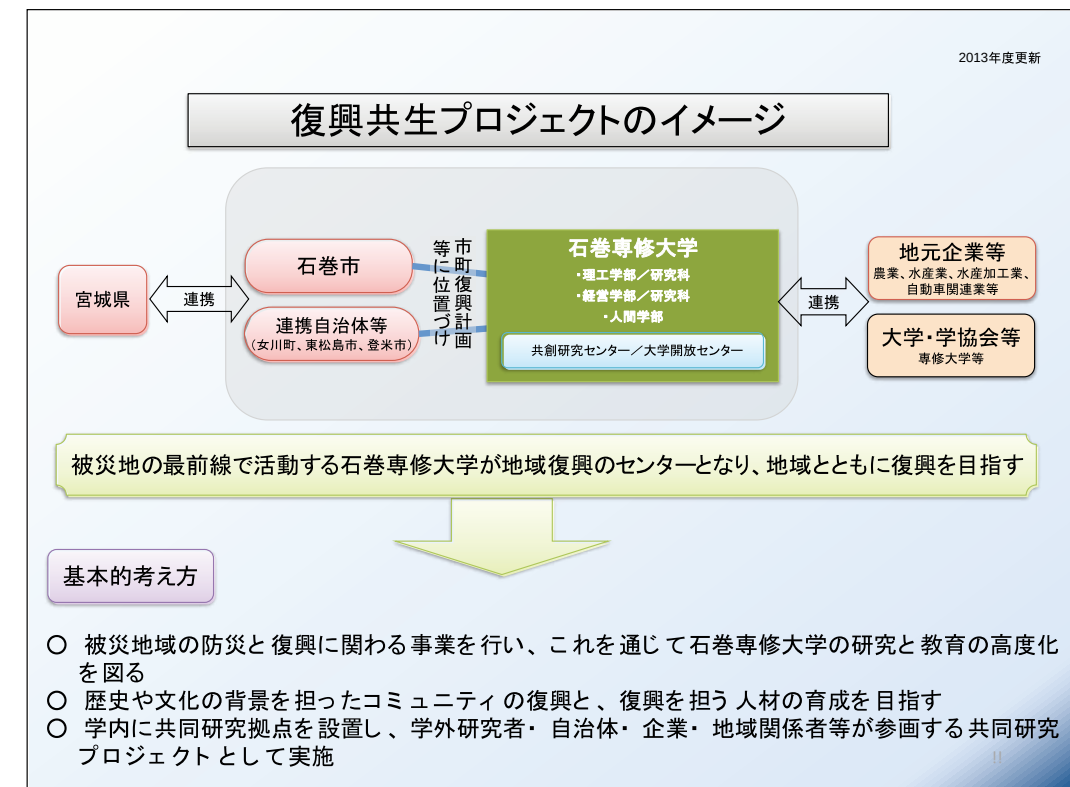
平成25年度から総合科目I「復興ボランティア学」の授業がスタートしました。

この授業は石巻の復興現場で活躍するボランティア団体のリーダーを招き、これからの復興課題や次世代へのメッセージを講話する内容で全16回を予定しています。また、最終日には復興ボランティア学ワークショップ&シンポジウムを開催し総括しています。なお、本授業は多くの方々に「石巻におけるボランティアの役割」を知ってもらう機会として、高校生や一般市民の方にも公開しています。開講前から問い合わせも寄せられており、関心度の高い様子が伺えました。

5 復興共生プロジェクト

平成22年度第27回学部長会(平成23年3月23日(水))において震災に関する研究プロジェクトを立ち上げることが決定しました。

その後、坂田学長主導のもとで平成23年4月に「復興共生プロジェクト」が発足しました。地域とともに復興を目指すため、実績があるプロジェクトや震災関連事業からスタートしました。プロジェクトは冷静、沈着に理論の再構築をはかり、大胆かつ果敢に実行に移す発想の転換を目指し、震災復興に寄与していくこととしています。



センター的機能整備事業

「石巻専修大学における復興共生プロジェクト推進のためのセンター的機能整備事業」

平成23年度に文部科学省に申請し、「石巻専修大学における復興共生プロジェクト推進のためのセンター的機能整備事業」が採択されました。石巻地域の産業復興プロジェクト、経営学部地域活性化研究会を中心とした地域貢献活動・復興支援活動等に継続して取り組んでおります。詳細については、『東日本大震災 石巻専修大学 報告書』を参照ください。

復興大学

復興大学(地域復興支援ワンストップサービス・プラットフォーム)

平成23年度に東北工業大学等と共同で文部科学省に申請し、「復興大学(地域復興支援ワンストップサービス・プラットフォーム)」が採択されました。石巻市役所内に石巻センターを設置し、相談員が地域企業等の抱える復興への課題を受けとめ、関連学術機関とともに問題解決を支援しています。平成27年度をもって補助期間が終了することから、最終年度に良い形で総括できるように見極めながら進めています。

3Dプリンタ活用による石巻市沿岸部の復元立体模型の製作 『ふるさと、石巻の情景～ 石巻市門脇町・南浜町周辺 ～ 』

東日本大震災に伴う大津波によって石巻市沿岸部の町並みは壊滅状態となりました。未だ市民の受けた震災の傷は癒えていません。

今後の復興において、大事にしなければならない根底にあるものは、そこに生きる地域住民の歴史であり、生き様であり、魂だと考えます。「心の復興」なくして「まちの復興」はありえません。石巻市沿岸部に暮らした方々が、ふるさとの町並みを思い出し、復興のための元気、希望、奮起を醸成するきっかけとなることを願い、本学「復興共生プロジェクト」では、平成23年7月1日から、東日本大震災により被災した石巻市門脇町・南浜町周辺の復元立体模型の製作に取り組んできました。「石巻市沿岸部の復元立体模型(縮尺1/750、2m×1.8m版)」の完成に伴い平成24年5月から平成27年3月まで述べ15箇所で開催を行い、多くの方々の手に触れていただきました。

石原ゼミナールが第7回『大学は美味しい!!』フェアに参加

新宿高島屋で開催した「第7回『大学は美味しい!!』フェア(開催日:平成26年5月28日～6月3日)」に石原教授と経営学部が参加しました。このフェアは、教員や学生たちが開発に携わった産学連携商品を紹介し、食に関する研究成果を伝えることを目的としており、今回は、38大学が出展しました。

本学では、石原ゼミナールで開発したサバだしラーメンとそばめしを販売、催事場に設けられたイートインコーナーにも出展をしました。地域活性や地域ブランド形成の視点からの商品開発であったこともあり、来場者から注目が集まりました。

参加した学生は、製品開発から販売活動を一貫して学ぶ機会となり、販売目標を達成するための計画を立てる等を行い、本学での学びとしてもしっかりと生かしていました。



山崎ゼミナールの仮設住宅実態調査レポート(石巻の復興の力になりたい)

東日本大震災によって、石巻専修大学が立地している石巻の地は大きく変わりました。経営学部山崎ゼミでは、「石巻の復興の力になりたい」という声が学生たちからあがりました。平成23年6月の大学再開とともに、ゼミでは何ができるか、何をすればいいのか話し合いが続きましました。最初はなにをすべきか迷っていましたが、やがて大学周辺で仮設住宅の建設がすすむ様子を見て、そこに住む人たちを「ご近所さん」として支援をしていこうという方針がまとまりました。本調査は、ゼミ生が仮設住宅の支援活動を実施するにあたって、基本情報の収集を目的として毎年、実施しています。

復興教育支援事業「防災学習すごろく」

平成23年度開放センターでは、文部科学省の復興教育支援事業の採択を受けて、東日本大震災の経験・知見を中心に防災教育に資する展示物やテキストをまとめました。

平成26年2月13日から宮城エクスプレス株式会社(石巻市魚町2-1-2)の新社屋5階の「明日のためのミュージアム」にて展示中です。この展示は、本学の理工学部若月昇教授と学生が「震災を出前展示で学び、日常防災に生かす」ことを目的に制作しました。



6 その他の地域貢献活動

(1) 大学施設の市民への開放

学外者の図書館利用

本学では、周辺地域に対して「開かれた大学」を志向し、地域の学術・文化の向上や産業の振興に貢献する目的の一環として、学外者(高校生以上)の図書館利用を推進しています。書籍の貸出しも無料でっており、貸出しは一度に3冊まで、期間は2週間となっています。初めて入館した際に入館ゲートの開閉や貸出時に必要な「利用者カード」を発行します。

教室・体育施設等の貸出し

本学では、大学の教室や体育施設等を、大学の授業等に支障がない場合、地域の方々から要望があれば貸出をしています。中でも公益性が高い行政機関や教育機関の場合、使用目的が公益性、重要性が高いと判断した場合などには、減免措置も講じています。

桜見学(お花見)

石巻専修大学は開学に際して、地域の方々から様々な種類の木々が贈られました。桜の木もその1つで、ソメイヨシノを筆頭に、サトザクラやカンヒザクラ(ヒカンザクラ)、シダレザクラなど学内に植栽されている数は約650本に及びます。開学時は1メートル程度の苗木でしたが、27年が経過し、今では大きいものは大人のお腹ほどの太さになっています。

満開の時期には、北門から第一学生駐車場までの通路に桜の回廊ができ、まさに「桜花爛漫」という言葉が当てはまるほどの美しさを見せます。

本学では、市民にも開放しており、ホームページには開花情報をアップしています。毎年複数の保育所・幼稚園、福祉施設が楽しみに花見にやって来ます。広い芝生の上でゆったりと、思い思いに観賞でき大変好評となっています。

大学施設見学

本学では、教育機関に対して大学見学会を行っています。企業・団体、個人に対しても大学見学会を随時受け付けています。担当者が施設設備の紹介や学部学科の紹介等、気になる疑問・質問に答えます。小学校のPTAの方々が大学見学に来学し、ミニ講演を受ける他、教室、実験室等の大学施設を見学しました。

ツール・ド・東北

平成25年度より東日本大震災の被災地を自転車で巡る「ツール・ド・東北(主催：(株)河北新報社、ヤフー(株))」が開催されました。本大会は、本学キャンパスが発着点会場となり、順位やタイムを競わないファンライド方式で実施され、全国から出場者が参加し、震災復興を支援する思いとともに地元の人たちとの交流を深めています。一般来場者向けの様々なイベントや物産品の販売が行われ、多くの人で賑っています。

出前授業テーマ一覧(平成26年度)

食環境学科

テーマ	対象				氏名	職名	分野
	小学	中学	高校	一般			
ワニはドキドキするか	○	●			坂田 隆	教授	栄養学・ 生理学・ 畜産学
大腸がはたらくしくみ			□	■			
食物繊維のはたらき ―ホントとウソ―			□	■			
腸内細菌のはたらき			□	■			
ラクダのはなし	○	●	□	■			
大学とはどんなところだろう	○	●	□	■			
ゲノムとは何か？	○	●	□	■	柴田 清孝	教授	生化学・ 分子生物学
ゲノム研究が新しい薬を生み出す-ゲノム創薬-	○	●	□	■			
海洋生物に含まれる微量元素			□	■	福島 美智子	教授	分析化学
食品・食材に含まれる微量元素を分析する			□	■			
放射線をはかる			□	■			
ソフトマターの科学		●	□	■	前田 敏輝	教授	物性物理・ 食品物理
食品の物理学		●	□	■			
どうすれば水辺の自然を保全・再生することができるのか？			□	■	玉置 仁	准教授	環境学
右手の分子と左手の分子			□	■	鳴海 史高	准教授	複合化学

生物科学科

テーマ	対象				氏名	職名	分野
	小学	中学	高校	一般			
かえるの子はかえる？	○	●	□	■	阿部 知顕	教授	生物科学
体はどうやってできるの？	○	●	□	■			
遺伝子組み換え作物とはどういうもの？	○	●	□	■			
魚のストレスと生体防御(免疫機構)		●	□	■	角田 出	教授	水産学・ 環境学
動物の適応とその機構(環境適応生物学)	○	●	□	■			
汚染物質の生物影響は形と量でこんなに違う！		●	□	■			
魚の病気を科学する		●	□	■			
マリンバイオテクノロジーの応用			□	■			
海清きところに魚棲まず	○	●	□	■	佐々木 洋	教授	環境学
ペンギンの遊ぶ海	○	●	□	■			
深海に降る雪と雨	○	●	□	■			
冬眠あけのクマはパワーアップしている		●	□	■	土屋 剛	教授	動物学
シカの骨は弱い、しかし角は強い		●	□	■			
恐竜の巨大化の謎		●	□	■	根本 智行	教授	基礎生物学
飛ぶトリ、飛ばないトリの秘密		●	□	■			

※○は小学生向け、●は中学生向け、□は高校生向け、■は一般人向け

テーマ	対象				氏名	職名	分野
	小学	中学	高校	一般			
鳴いてしまうオス、鳴かないメスの喉自慢	○	●	□	■	根本 智行	教授	基礎生物学
プラントウォッチングのすすめ	○	●	□				
花、実、たねに学ぶ植物の進化	○	●	□				
植物の見分け方、覚え方	○	●	□				
遺伝子の働き	○	●	□	■			
溪流に住む単細胞生物		●		■	芳賀 信幸	教授	生物科学
若返る生命	○	●	□	■			
踊る原生動物	○	●	□	■			
離島に乗って太平洋を北上する単細胞生物	○	●	□	■			
カキやホタテガイの繁殖戦略		●	□	■	松谷 武成	教授	水産学
ウニの自分の体の守り方	○	●	□	■			
細胞壁の話			□	■	宮寄 厚	教授	生物科学・ 菌類発生生理学
ちょっと変わったカビの世界	○	●	□	■			
琥珀の産地を音速で特定？		●	□	■	吉原 章	教授	複合科学
トンボやセミの翅を研究すると何が分かる？		●	□	■			
2007年度ノーベル物理学賞受賞者から学んだこと		●	□	■			
海はプランクトンの世界	○	●	□	■	太田 尚志	准教授	水産学
私たちの暮らしとプランクトン	○	●	□	■			
海は何色？	○	●	□	■			
地球温暖化と海	○	●	□	■			

機械工学科

テーマ	対象				氏名	職名	分野
	小学	中学	高校	一般			
ものはどうして壊れるか	○	●	□	■	足立 岳史	教授	材料強度
材料と歴史	○	●	□	■			
身近なエネルギーの利用	○	●	□	■	泉 正明	教授	機械工学
エネルギーの過去、現在、未来	○	●	□	■			
エネルギーと相変化	○	●	□	■			
水のメスからロケットまで流体の不思議な力	○	●	□	■	尾池 守	教授	機械工学
宇宙への飛翔	○	●	□	■			
摩擦の世界	○	●	□	■			
圧縮機のしくみとはたらき		●	□	■	亀谷 裕敬	教授	機械工学・ 機構学
発明と特許と新製品開発		●	□	■			
鉄道の科学 蒸気機関車から新幹線まで	○	●	□	■			

テーマ	対象				氏名	職名	分野
	小学	中学	高校	一般			
乗用車用クリーンディーゼルエンジン		●	□	■	川島 純一	教授	自動車工学・ エネルギー工学・ エンジン
エコラン用電気自動車の製作		●	□				
将来の自動車技術			□	■			
地球環境とエネルギー (温暖化の原因は？新エネルギーは？)			□	■	島田 了八	教授	熱工学・ エネルギー工学・ 機械工学
冷やす(冷却しないと動かなくなる)			□	■			
自然界の現象と工学(バイオミクリーの実例)	○	●	□	■			
蓄熱(必要な時に必要な場所で熱を利用するためには)				■			
津波体験談	○	●	□	■	山本 憲一	教授	自動車
津波と自動車災害	○	●	□	■			
自動車の将来	○	●	□	■			
機械が感じるストレスとは？			□	■	高橋 智	准教授	機械工学 計算力学 (材料力学)
身近な材料で学ぶモノの強さ		●	□	■			
3次元プリンタを知る		●	□	■	水野 純	准教授	マイクロエレクトロ メカニカル システム
「マイクロマシンについて」			□	■			

情報電子工学科

テーマ	対象				氏名	職名	分野
	小学	中学	高校	一般			
走れコンデンサーカー	○				工藤 すばる	教授	電気電子工学
コンピュータを利用した製品の設計開発			□				
ふしぎな石ころ				■			
半導体デバイスのしくみ			□		國分 義弘	教授	電子工学・ 半導体デバイス
情報技術における光の役割							
超音波と私たちの生活			□		菅原 澄夫	教授	電気電子工学
身の回りの物理現象とセンサへの応用			□				
ナビゲーション技術と私たちの生活			□				
半導体について			□	■	中込 真二	教授	電子工学・ 半導体工学
LEDについて		●	□				
ワイドキャップ半導体について				■			
情報氾濫時代ーゴミの山からお宝探せー	○	●	□	■	丸岡 章	特任教授	計算理論
未来社会のエネルギー			□		望月 勝美	教授	電子材料
X線撮像デバイス	○	●	□	■			
ナノテクノロジーのお話		●	□	■	安田 隆	教授	電気電子工学
大電流の遮断の大切さと難しさ	○	●	□	■	若月 昇	教授	電気電子工学
組込み型コンピュータによる電子制御			□		佐々木 慶文	准教授	情報工学
Android/iOSデバイスの仕組みと制御応用			□				

テーマ	対象				氏名	職名	分野
	小学	中学	高校	一般			
情報セキュリティ・ネチケット・リテラシー	○	●	□	■	川村 暁	講師	情報学
Linux・UNIX	○	●	□	■			
乱数生成の話	○	●	□	■			
暗号技術の話	○	●	□	■			
人とコンピュータをつなぐディスプレイ	○	●	□	■	木元 一彦	講師	電気電子工学
薄膜が作るITのキーデバイス	○	●	□	■			

基礎理学科

テーマ	対象				氏名	職名	分野
	小学	中学	高校	一般			
コンピュータとは何だろうか			□		綾 皓二郎	教授	情報

経営学科

テーマ	対象				氏名	職名	分野
	小学	中学	高校	一般			
異業種連携による地域性を生かした商品開発			□	■	石原 慎士	教授	情報
地域ブランドの形成に向けた地域マーケティングのあり方			□	■			
子どもたちに教えたい税の意義と役割			□	■	岡野 知子	教授	経営学
税のトリビア	○	●	□	■			
組織におけるリーダーシップとモチベーション	○	●	□	■	杉田 博	教授	経営学
IT時代の会計情報の開示			□	■	関根 慎吾	教授	経営学
ピーターラビットの世界の会計学	○	●	□	■			
会社について	○	●	□	■	晴山 俊雄	教授	経営学
コスタリカの観光	○	●	□	■	丸岡 泰	教授	経済学
途上国はなぜ貧しいのか	○	●	□	■			
なりきって学ぶプログラミング	○	●	□	■	湊 信吾	教授	情報学
伝えて学ぶネットワーク	○	●	□	■			
コンピュータ英雄伝	○	●	□	■			
ゲームとデザイン	○	●	□	■			
日本銀行の金融政策とインフレ・ターゲティング			□	■	茂木 克昭	教授	金融論
円ドル相場の変動をどう理解するか			□	■			
今日の外国為替市場			□	■			
日本の貨幣制度の歴史			□	■			
実践会計学のすすめ ～会計から見るテーマパーク経営～		●	□		竹中 徹	准教授	会計学

テーマ	対象				氏名	職名	分野
	小学	中学	高校	一般			
中小企業をめぐる会計制度の現状と課題				■	竹中 徹	准教授	会計学
未来のコンビニ情報化戦略	○	●	□	■	益満 環	准教授	経営情報学
食品トレーサビリティー	○	●	□	■			
経済学の基本原理 ～アベノミクスから5年後の自分を描く～			□		関口 駿輔	助教	経済学

人間文化学科

テーマ	対象				氏名	職名	分野
	小学	中学	高校	一般			
再生可能エネルギーを用いた家庭用非常電源			□	■	惠原 貴志	教授	半導体物理
「英語と私 ― 私の英語の旅路」		●	□	■	大津 幸一	教授	英語教育
「カタカナ語 目からうろこ」		●	□	■			
「どうしたら英語を面白く学べるか」		●	□	■	佐藤 利明	教授	社会学
社会学とは		●	□	■			
農山漁村を歩く・見る・聞く		●	□	■			
地域づくりと地域活性化		●	□	■			
脳の神秘	○	●	□	■	鈴木 均	教授	基礎医学
男の脳と女の脳	○	●	□	■			
見て納得、でも見せられて騙される	○	●	□	■			
貝の眼、タコの眼、エビ・カニの眼	○	●	□	■			
透明人間になる方法	○	●	□	■			
特許はいたるところに	○	●	□	■			
科学と昔話とSF	○	●	□	■			
光通信網は4億年前に植物が開発	○	●	□	■			
地面の下の明るい世界	○	●	□	■			
植物が奏でる音楽	○	●	□	■			
「教育を哲学するということ」			□		西方 守	教授	教育哲学
『ナルニア国物語』の魅力			□		根本 泉	教授	イギリス文学
「だまし絵」の不思議な世界			□	■	松崎 俊之	教授	美学・哲学
色のいろいろ			□	■			
楽しい中国語 ― “娘”はママで“老婆”は新妻？	○	●	□	■	輪田 直子	准教授	中国語・中国文学
奇想天外三国志 ― 庶民の愛した三国物語		●	□	■			
多読多聴による英語学習		●	□	■	大縄 道子	准教授	アメリカ文学・英語教育
英語のリズムを身につけよう		●	□	■			

人間教育学科

テーマ	対象				氏名	職名	分野
	小学	中学	高校	一般			
算数の授業づくり	○				有見 正敏	特任教授	算数教育・学校経営
校内研究と授業改革	○	●					
組織を生かした学校経営	○	●					
教具を生かした算数指導	○						
人を育てる	○	●	□	■	木村 民男	教授	教育
教師の資質向上				■			
生涯学習(幼児教育・地域づくり)				■			
学校経営の要諦				■			
生徒指導の要諦				■			
授業づくりの基本				■			
「作曲」ってナニ?ー音楽のABCを知る-	○	●	□	■	近藤 裕子	教授	作曲・作曲理論
電池を知って電池になる	○	●	□	■	指方 研二	教授	電気化学
発達障害の正しい理解			□	■	佐藤 正恵	教授	発達・臨床心理学
ゾウリムシの性と生殖			□	■	柳 明	教授	生物科学
ゾウリムシの2種類の核	○	●	□	■			
ゾウリムシの話	○	●	□	■			
体力を高める科学的トレーニング	○	●	□	■	山崎 省一	教授	健康・スポーツ科学
運動不足は健康の敵?		●	□	■			
華麗に老い、生きるために		●	□	■			
いじめ問題について考えよう		●	□	■	新福 悦郎	特任准教授	教育実践
体罰について考える	○	●	□	■			
授業づくりの心理学ー教えることと学ぶことー				■	佐藤 誠子	助教	教授学習心理学
「勉強法」を考える				■			
「伝える」と心理学	○	●	□	■	永山 貴洋	助教	スポーツ心理学
コーチングと心理学	○	●	□				
「気になる」子どもの理解と対応 (※対象・・・幼児と関わる大人)			□ (※)	■	平川 久美子	助教	発達心理学

行政機関との連携協力
(石巻市、石巻市防災、女川、東松島、登米市)

○自治体との連携協定の締結

石巻市との包括連携協定 (平成20年2月4日) 平成20年2月4日、教育研究機関としてのノウハウを地域活性の推進に役立てるため、石巻市と石巻専修大学による「包括連携協定」調印式が行われました。協定の主項目は右記の通りです。	① 地域づくり・まちづくりの推進
	② 観光・産業振興など地域経済発展
	③ 環境保全、防災対策推進
	④ 健康づくり
	⑤ 住民との協働推進
	⑥ 教育・文化振興、生涯学習の推進
	⑦ 国際化・国際交流の推進
女川町との包括連携協定 (平成20年2月19日) 平成20年2月19日、教育研究機関としてのノウハウを地域活性の推進に役立てるため、女川町と石巻専修大学による「包括連携協定」調印式が行われました。協定の主項目は右記の通りです。	① 教育・研究、文化・スポーツの振興
	② 地域産業の振興
	③ 環境の保全及び防災対策の推進
	④ 健康づくり
	⑤ まちづくり
	⑥ 施設の利用
	⑦ その他相互に連携協力することが認められる事項
東松島市との包括連携協定 (平成20年2月27日) 平成20年2月27日、知的財産を地域活性化に生かすため、東松島市と石巻専修大学による「包括連携協定」調印式が行われました。協定の主項目は右記の通りです。	① 産業、観光の振興
	② 市民協働のまちづくりの推進
	③ 安全、安心なまちづくりの推進
	④ 健康づくり、子育て支援の推進
	⑤ 環境の保全
	⑥ 教育、文化、スポーツ、人材育成の推進
	⑦ 都市基盤整備の推進
	⑧ その他相互に連携協力することが必要と認められる事項
登米市との包括連携協定 (平成20年2月27日) 平成21年3月10日、登米市と石巻専修大学は「連携協定」を締結しました。 相互の密接な連携協定により、地域社会の発展と人材育成および学術の振興に寄与することを目的としています。協定の主項目は右記の通りです。	① 地域産業の活性化に関すること
	② 人材育成・技術等の調査研究に関すること
	③ その他相互に連携協力することが必要と認められる事項

行政機関との連携協力

石巻市との大災害時における連携に関する協定 平成23年5月25日(当初予定平成23年3月末)、石巻市と石巻専修大学による「大災害時における連携に関する協定」調印式が行われました。協定の主項目は右記の通りです。	①施設等の使用：教室、第1学生駐車場、体育館、雨天体育場、多目的グラウンド、その他状況に応じて本学が使用可能と認める施設
	②協力要請：災害ボランティアセンター、救援物資等の集積場、自衛隊等の災害派遣隊、臨時防災ヘリポート、避難所としての施設使用
	③ボランティア活動：災害応急対策に必要な協力、学生が行うボランティア活動の支援及びボランティアの募集及び斡旋等への協力
	④平常時の相互協力：災害時の協力に関する研究及び情報交換、学生等に対する防災啓発活動、その他協力に必要な事項

宮城教育委員会と包括連携協力に関する協定締結 平成25年3月25日、宮城県教育委員会と石巻専修大学による「包括連携協力に関する協定」を締結しました。協定(連携・協力)の主項目は右記の通りです。	①教育研究、調査研究に関すること
	②学生・生徒・児童の学習支援に関すること
	③教員の養成及び研究に関すること

○石巻地域の教育委員会・各学校等との連携体制

石巻圏域保育・教育人材育成推進協議会 (平成26年2月5日発足) [趣旨] 石巻地域の保育・教育・文化関係の人材育成を推進するため、関係者・関係機関が広く連携することにより、地域の教育力を向上させ、教育環境の改善を図る必要がある。東日本大震災からの復興・再生のためにも、地域の将来を担う子どもたちへの教育や環境づくりを連携して取り組むことは重要であり、広く意見交換を行う。	参加機関	事業内容
	①石巻専修大学	①人材教育に関わる情報の交換
	②教育行政機関(石巻地域高等教育事業団、石巻市教育委員会、東松島市教育委員会、女川町教育委員会)	②石巻専修大学の実習等に関する進路・調整・指導
		③相互の講師派遣等
	③行政機関(石巻市福祉部子育て支援課、東松島市保健福祉部福祉課、女川町福祉課)	④子どもや保護者、市民向け企画等の実施
		⑤各種組織・団体の研修生等の受け入れと指導
	④学校・施設等の連合組織等(石巻地区高等学校長協議会、石巻地区中学校長会、石巻地区小学校長会、宮城県国公立幼稚園協議会石巻支部、宮城県私立幼稚園連合会石巻地区会、石巻地区保育協議会)	⑥免許更新制等に関する協議
		⑦「改正認定こども園法」経過措置に関する協議
		⑧保育士・教員向けの各種研修会に関する協議
		⑨拠点校・協力校提携推進に関する事業
		⑩その他

石巻専修大学 編集・発行

〒986-8580 宮城県石巻市南境新水戸1番地

TEL 0225-22-7711

FAX 0225-22-7710

URL <http://www.isenshu-u.ac.jp/>

発行日 平成27年3月31日